

【留萌北部森林管理署】 我が署・木造建築紹介！



庁舎

コンセプトの1点目としては、「町並みとけ込んだ」レンガ調の外観です。これは、庁舎と隣接している天塩川歴史資料館（旧天塩町役場庁舎（昭和26年建築））が赤レンガ調であり、また、庁舎向かいの稚内信用金庫天塩支店、北海道新聞天塩支局も赤レンガ調に建築されており、天塩町では「赤レンガ通り」としていることから、外壁は赤レンガ調を採用しています。

留萌北部森林管理署は、日本海に面した留萌地方最北の天塩町に所在しています。平成20年3月に落成した現在の庁舎は、次の6点のコンセプトを基本として、道産材のクラマツやナラをふんだんに使用して建築されています。



玄関ホール壁の壁

2点目は、「玄関壁材に『管内町村（4町1村）の木』を使用しています。これは、当時管轄していた4町1村（現在は3町1村）の木を組み合わせて正面玄関の内装に使用しているものです。各町村の木は、アカエゾマツ・幌延町（現在は宗谷管内）、エソヤマザクラ・天塩町、シラカバ・遠別町、ナナカマド・初山別村、イチイ・羽幌町となっています。

3点目は、「構造材は迫力のある『大断面集成材』として、特に柱や梁は北海道産のクラマツの大断面集成材を使用しています。

4点目は、「使用木材は、すべて『フェアウッド（合法材）』としています。

5点目は、「人に優しいバリアフリー構造」として、玄関、トイレなどは、ユニバーサルデザインに配慮したバリアフリー構造を採用しています。

6点目は、「地球環境に優しい『ペレットストーブ』を設置し、道産の木質バイオマス資源の使用を通じ、地球温暖化防止のPRに努めています。

主な木材使用量は、柱・梁にクラマツを約40㎡、屋根・壁下地にエソマツ・トドマツを約60㎡、床フロアリングにナラを約6㎡（約

370㎡）、腰壁羽目板にクラマツを約2㎡（約180㎡）、建具・枠としてシナ合板を約2㎡（約470㎡）と木材を多く使用しており、木材使用量の合計は約110㎡となっています。

また、庁舎内の各部屋への出入り口はすべて引き戸になっており、少し和風な雰囲気も醸し出しているところです。

このような環境で勤務している職員は、普段から執務中も室内の木材が目に入ることから、庁舎全体から温かみを感じながら仕事をしています。



事務室

木の部分は、年を追うごとに風合いが熟成し、これまで勤務してきた先輩達が少しずつ残していった小さなキズなどを目にする職員と同様に庁舎も年輪がひ

とつずつ増えていっていると感じています。



廊下

新築から14年ほど経過し、日本海から700mという立地で厳しい風雪を受け、今年の冬は一部雨漏りがあったとともに玄関に使用しているクラマツは年季を感じさせる味も出てきたことから、本格的なメンテナンスを行う時期になってきたところですが、木材の経年変化の風合いを残しながら手入れができるように知恵を絞って、今後、維持・管理していきたいと考えています。

最後に、先輩達から引き継いできたこの木造（赤レンガ調）庁舎を今後も大切にしながら、地域に密着した森林づくりに励みたいと考えています。